

6資産バランスファンド(成長型)

愛称：ダブルウイング

追加型投信／内外／資産複合

信託期間：2006年3月14日 から 無期限
決算日：毎年3月6日および9月6日(休業日の場合翌営業日) 基準日：2025年10月31日
回次コード：3060

※過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

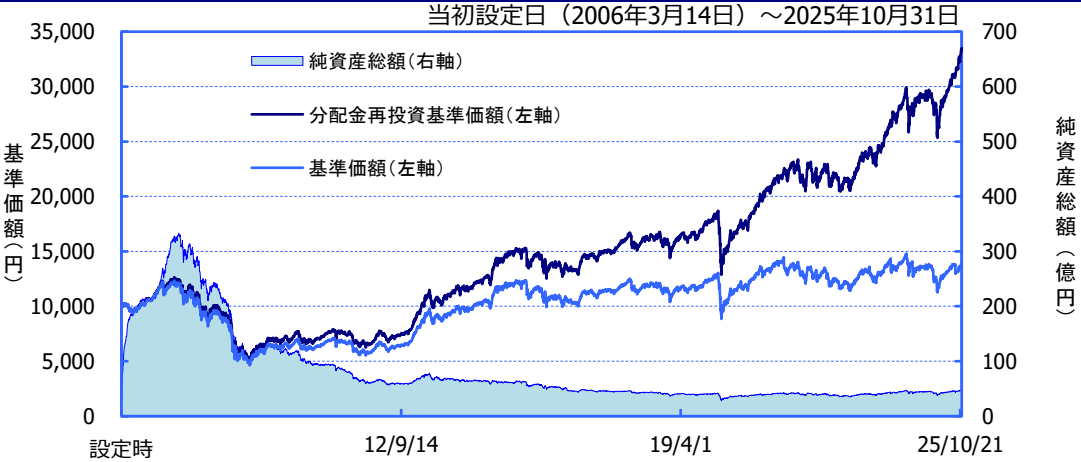
《基準価額・純資産の推移》

2025年10月31日現在

基準価額	13,931 円
純資産総額	47億円

期間別騰落率	
期間	ファンド
1カ月間	+5.7 %
3カ月間	+9.3 %
6カ月間	+22.3 %
1年間	+15.1 %
3年間	+51.4 %
5年間	+98.4 %
年初来	+13.9 %
設定来	+235.1 %

※「分配金再投資基準価額」は、分配金(税引前)を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。
※基準価額の計算において、運用管理費用(信託報酬)は控除しています(後述のファンドの費用をご覧ください)。
※「期間別騰落率」の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間とし、当該ファンドの「分配金再投資基準価額」を用いた騰落率を表しています。
※実際のファンドでは、課税条件によって投資者ごとの騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。



《分配の推移》

(1万口当たり、税引前)

決算期(年/月)	分配金
第1～27期 合計：	3,460円
第28期 (20/03)	200円
第29期 (20/09)	200円
第30期 (21/03)	600円
第31期 (21/09)	1,000円
第32期 (22/03)	250円
第33期 (22/09)	500円
第34期 (23/03)	200円
第35期 (23/09)	600円
第36期 (24/03)	1,000円
第37期 (24/09)	800円
第38期 (25/03)	600円
第39期 (25/09)	900円
分配金合計額	設定来：10,310円

※分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。
※債券ポートフォリオ特性値は、ファンドの組入債券等の各特性値(直接利回り、最終利回り等)を、その組入比率で加重平均したものです。※先物の建玉がある場合は、資産別構成の比率合計欄を表示していません。

※格付別構成については、当社所定の基準で採用した格付けを基準に算出しています。
※変動要因分解は、簡便法に基づく概算値であり、実際の数値とは異なる場合があります。また、その他要因には、運用管理費用による要因、設定・解約の影響などがあります。小数点以下四捨五入等の関係で各欄の数値の合計が一致しない場合があります。
■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和アセットマネジメントにより作成されたものです。当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって投資元本が保証されているものではありません。当ファンドの取得をご希望の場合には最新の投資信託説明書(交付目論見書)を販売会社よりお渡しいたしますので、必ず内容をご確認の上ご自身でご判断ください。後述の当資料のお取り扱いにおけるご注意をよくお読みください。

《主要な資産の状況》

※比率は、純資産総額に対するものです。

資産別構成		
資産	銘柄数	比率
外国株式	143	25.5%
国内株式	37	25.2%
外国リート	71	19.2%
国内リート	47	18.6%
国内債券	22	4.6%
外国債券	42	4.6%
国内リート 先物	1	0.3%
コール・ローン、その他		2.3%
合計	363	---
通貨別構成		
通貨	合計100.0%	
日本円	50.2%	
米ドル	34.3%	
ユーロ	4.4%	
豪ドル	4.2%	
英ポンド	2.6%	
シンガポール・ドル	1.3%	
香港ドル	1.0%	
カナダ・ドル	0.8%	
スイス・フラン	0.4%	
その他	0.9%	

債券ポートフォリオ特性値	
直接利回り(%)	2.4
最終利回り(%)	2.6
修正デュレーション	7.4
残存年数	8.9
債券格付別構成	
合計100.0%	
格付別	比率
AAA	87.7%
AA	10.2%
A	2.1%
BBB	---
BB	---

※債券ポートフォリオ特性値、格付別構成の比率は、債券ポートフォリオ(債券先物を除く)に対するものです。

《基準価額の月次変動要因分解》			
	価格要因	為替要因	合計
海外債券	7 円	18 円	25 円
国内債券	1 円	---	1 円
海外REIT	14 円	82 円	96 円
国内REIT	63 円	---	63 円
海外株式	155 円	117 円	271 円
国内株式	314 円	---	314 円
その他要因	---	---	▲17 円
分配金	---	---	0 円

設定・運用：

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

商号等

大和アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第352号
一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

加入協会

国内債券 組入上位銘柄			合計3.0%
銘柄名	利率(%)	償還日	比率
32 30年国債	2.3	2040/03/20	0.3%
94 20年国債	2.1	2027/03/20	0.3%
28 30年国債	2.5	2038/03/20	0.3%
110 20年国債	2.1	2029/03/20	0.3%
26 30年国債	2.4	2037/03/20	0.3%
30 30年国債	2.3	2039/03/20	0.3%
101 20年国債	2.4	2028/03/20	0.3%
22 30年国債	2.5	2036/03/20	0.3%
86 20年国債	2.3	2026/03/20	0.3%
116 20年国債	2.2	2030/03/20	0.3%

【国内債券】

(債券市況)

国内債券市場では、金利はおおむね横ばいとなりました。自民党総裁選の結果を受けて財政拡大が意識されたことが金利上昇要因となった一方、日銀の早期利上げ観測の後退が金利低下要因となりました。

(今後の見通し)

国内の経済・物価は、おおむね日銀の想定通りに推移すると見込んでおり、緩やかなペースでの利上げが実施されるとみえます。利上げの実施とともに長期金利は徐々に上昇していくと予想します。

海外債券 組入上位銘柄			合計2.7%
銘柄名	利率(%)	償還日	比率
AUSTRALIAN GOVERNMENT BOND	4.5	2033/04/21	0.4%
SPANISH GOVERNMENT BOND	2.9	2046/10/31	0.4%
United States Treasury Note/Bond	1.125	2040/08/15	0.4%
UNITED STATES TREASURY NOTE/BOND	3.375	2033/05/15	0.3%
United States Treasury Note/Bond	0.875	2030/11/15	0.3%
UNITED KINGDOM GILT	4.25	2034/07/31	0.2%
SPANISH GOVERNMENT BOND	1.2	2040/10/31	0.2%
EUROPEAN INVESTMENT BANK	2.75	2030/07/30	0.2%
United Kingdom Gilt	0.25	2031/07/31	0.2%
INTL. FIN. CORP.	1.25	2031/02/06	0.2%

【海外債券】

(債券市況)

海外債券市場では、金利はおおむね低下しました。米国では、米中貿易摩擦再燃への懸念などから、投資家のリスク回避が強まり、月前半に金利は低下しました。しかし、FRB（米国連邦準備制度理事会）が利下げを決定した後の議長会見では、次回利下げに慎重な姿勢が明確に示されたことなどから、月後半にかけて金利は低下幅を縮小しました。その他の国についても、米国金利に連れる形で金利はおおむね低下しました。

(今後の見通し)

米国においては、政府機関閉鎖により各種経済統計が発表されず、FRBも慎重姿勢を強める中、短期的には明確な金利変動要因を欠く状況が続くとみられ、米国金利は方向感のない展開を見込みます。しかし、中期的には関税などによる経済鈍化やさらなる利下げに焦点が当たると考えることから、金利は低下方向を想定します。その他の国について、利下げの到達点などに多少の差はあるとみているものの、金利はおおむね米国に連れる展開を見込みます。

国内株式 組入上位銘柄			合計12.1%
銘柄名	東証33業種名	国・地域名	比率
ソニーグループ	電気機器	日本	2.0%
日立	電気機器	日本	1.6%
アドバンテスト	電気機器	日本	1.5%
住友電工	非鉄金属	日本	1.4%
任天堂	その他製品	日本	1.2%
東京エレクトロン	電気機器	日本	1.0%
味の素	食料品	日本	0.9%
村田製作所	電気機器	日本	0.9%
トヨタ自動車	輸送用機器	日本	0.9%
HOYA	精密機器	日本	0.8%

【国内株式】

(株式市況)

国内株式市場は上昇しました。米政府機関閉鎖への懸念もあり軟調に始まりましたが、自民党総裁選で高市氏が勝利すると、財政拡張や金融緩和期待による円安の進行、減税や経済政策への期待の高まりから上昇に転じました。月半ばには自公連立解消で政局混迷が懸念され一時下落しましたが、高市新政権の発足に伴い、自維連立政権樹立の合意により、「責任ある積極財政」の下での政策期待などから月末にかけて上昇基調を維持しました。

(今後の見通し)

米関税政策や円安効果のはく落で企業業績は外需中心に減速しており、注意が必要です。一方、東証の要請などを背景に企業の資本効率向上への意識が高まり、かつてない規模の株主還元が進んでいます。こうした自社株買いの件数・規模の拡大による需給改善は、国内株式市場の堅調な展開を後押しすると見込まれます。さらに高市政権の「責任ある積極財政」による需要喚起策が実現すれば、内需主導の大相場となる可能性もあります。

海外株式 組入上位銘柄			合計10.9%
銘柄名	業種名	国・地域名	比率
NVIDIA CORP	情報技術	アメリカ	2.1%
MICROSOFT CORP	情報技術	アメリカ	1.6%
APPLE INC	情報技術	アメリカ	1.6%
ALPHABET INC-CL C	コミュニケーション・サービス	アメリカ	1.5%
BROADCOM INC	情報技術	アメリカ	1.0%
AMAZON.COM INC	一般消費財・サービス	アメリカ	0.9%
META PLATFORMS INC CLASS A	コミュニケーション・サービス	アメリカ	0.8%
JPMORGAN CHASE & CO	金融	アメリカ	0.6%
TESLA INC	一般消費財・サービス	アメリカ	0.5%
AMERICAN EXPRESS CO	金融	アメリカ	0.4%

※業種名は、原則としてS&PとMSCI Inc.が共同で作成した世界産業分類基準(GICS)によるものです。

※海外株式の国・地域名については、原則としてMSCI Inc.が提供するリスク所在国・地域に基づいて表示しています。

【海外株式】

(株式市況)

欧米株は上昇しました。軟調な米ADP雇用統計を受けたFRBによる追加利下げ期待や、米政府による米英製薬2社に対する関税軽減措置が欧州医薬品株に波及するとの期待などから上昇基調で始まりしました。その後、米中対立再燃や地銀の信用リスク問題などを背景に、欧米株とも一時的に下落する局面がありましたが、こうした懸念が後退する中、リスク選好姿勢が強まり、月末まで上昇基調で推移しました。

(今後の見通し)

米国株は、AI関連分野の成長拡大を追い風に堅調な展開を想定します。一方で、米関税政策の影響で、企業による価格転嫁が進み、物価が予想以上に上昇した場合は、FRBによる利下げ期待が後退する可能性がある点に留意が必要です。欧州株は、ハイテク株比率が相対的に低く、成長面でやや不利になる可能性があります。財政拡張が追い風となるほか、PER面での割高感が乏しいことから、緩やかな上昇継続を見込みます。

※比率は、純資産総額に対するものです。

Daiwa Asset Management

※ 後述の当資料のお取り扱いにおけるご注意をよくお読みください。

国内リート 組入上位銘柄			合計10.4%
投資法人名	種別名	国・地域名	比率
日本ビルファンド	オフィス不動産投資信託	日本	1.4%
野村不動産マスターフ	各種不動産投資信託	日本	1.2%
日本都市ファンド投資法人	店舗用不動産投資信託	日本	1.2%
KDX不動産投資法人	各種不動産投資信託	日本	1.2%
GLP投資法人	工業用不動産投資信託	日本	1.1%
日本プロロジスリート	工業用不動産投資信託	日本	1.1%
ジャパンリアルエステイト	オフィス不動産投資信託	日本	1.0%
大和ハウスリート投資法人	各種不動産投資信託	日本	0.9%
インヴィンシブル投資法人	ホテル・リゾート不動産投資信託	日本	0.7%
ジャパン・ホテル・リート投資法人	ホテル・リゾート不動産投資信託	日本	0.7%

※種別名について、原則として国内リートはS&PとMSCI Inc.が共同で作成した世界産業分類基準(GICS)に基づき分類しています。

※用途名について、原則として海外リートはS&P Global Property Indexに基づき分類しています。

※比率は、純資産総額に対するものです。

海外リート 組入上位銘柄			合計7.3%
銘柄名	用途名	国・地域名	比率
GOODMAN GROUP	産業用	オーストラリア	1.4%
WELLTOWER INC	ヘルスケア	アメリカ	1.3%
DIGITAL REALTY TRUST INC	データセンター	アメリカ	0.8%
PROLOGIS INC	産業用	アメリカ	0.7%
STOCKLAND	ダイバーシファイド	オーストラリア	0.5%
CAPITALAND INTEGRATED COMMER	ダイバーシファイド	シンガポール	0.5%
SCENTRE GROUP	小売	オーストラリア	0.5%
CROWN CASTLE INC	その他	アメリカ	0.5%
KLEPIERRE	小売	フランス	0.5%
INVITATION HOMES INC	住宅	アメリカ	0.4%

【国内REIT（リート）】

（リート市況）

J-REIT市場は10月も上昇し、月次ベースでは7カ月連続で上昇しました。10月4日の自民党総裁選で高市早苗氏が当選、自民党は公明党との連立を解消したものの、日本維新の会との連立合意に至り、高市政権が発足しました。責任ある積極財政を掲げ、利上げに慎重な姿勢とみられる新政権を受けて、国内株式は大きく上昇、J-REIT市場も上昇しました。

（今後の見通し）

10月に発表された決算・業績予想をみると、特にオフィスで今後の賃料増額加速への期待が高まる内容でした。賃貸住宅も好調で、賃料増額は過去最高を更新する銘柄も出てきました。J-REITは賃貸事業利益の成長に加えて、活況な不動産売買市況を受け、物件売却による含み益の投資家への還元も期待されます。安定した高い利回りに加え、今後の利益成長が期待されるJ-REITは投資対象として魅力的とみています。

【為替】

（為替相場）

為替市場では、投資対象通貨は対円で上昇しました。米ドルは、自民党総裁選の結果を受けて、財政拡張や緩和的な金融環境の継続への期待などから、投資家のリスク選好度が強まり、円安が進行しました。月末にかけて、米中通商協議の合意内容が発表されたことも、円安米ドル高要因となりました。その他の投資対象通貨も、米ドル円に連れた動きとなり、対円で上昇しました。

（今後の見通し）

日銀の金融政策は引き続き利上げ方向である一方で、米国は利下げ方向であるため、日米の金利差縮小に連れて、米ドルは対円で緩やかに弱含む展開を見込みます。ただし、金融政策に対する不確実性や日本の政治動向が意識されると想定しており、米ドルは対円で不安定な展開を予想します。その他の通貨においては、おおむね米ドル円に連れた動きを見込みます。

【海外REIT（リート）】

（リート市況）

海外REIT市場は下落しました。国・地域別に見ると、長期金利が低下傾向で推移した欧州やアジア・オセアニアが上昇した一方、米国が下落しました。米国では、米中の緊張の高まりや地銀の信用リスク懸念から、裁量消費関連のセクターで調整幅が大きくなりました。また、7-9月期の決算発表で堅調な需要が確認された産業施設やデータセンターが上昇した一方、新規契約の軟調さが目立った集合住宅が低迷しました。

（今後の見通し）

建築コストの高止まりや高金利環境の下で物件供給が抑制されており、稼働率および賃料の上昇要因となっています。大手上場REITは良質な物件を多く保有しており、景気が減速する中でも安定した需要と着実な賃料上昇が期待されることから、全体としてポジティブな見通しを持っています。一方で、需要面のリスク要因として、労働市場の悪化に注意が必要であると考えています。

※P2、P3のコメントについては、現時点での投資判断を示したものであり、将来の市況環境の変動等を保証するものではありません。

Daiwa Asset Management

※ 後述の当資料のお取り扱いにおけるご注意をよくお読みください。

《ファンドの目的・特色》

ファンドの目的

- ・内外の債券、株式およびリート（不動産投資信託）に投資し、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざします。

ファンドの特色

- ・内外の債券、株式およびリートに投資します。
- ・海外の債券への投資にあたっては、ソブリン債等に投資します。
- ・わが国の債券への投資にあたっては、国債に投資します。
- ・内外の株式への投資にあたっては、中長期的に企業価値の向上が期待される銘柄に投資します。
- ・内外のリートへの投資にあたっては、個別銘柄の投資価値を分析して、配当利回り、期待される成長性、割安度などを勘案し投資銘柄を選定します。

《投資リスク》

- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、**投資元本が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。**基準価額の主な変動要因は、以下のとおりです。

価格変動リスク・信用リスク 株価の変動	組入資産の価格が下落した場合には、基準価額が下落する要因となり、投資元本を割込むことがあります。 株価は、政治・経済情勢、発行企業の業績、市場の需給等を反映して変動します。 発行企業が経営不安、倒産等に陥った場合には、投資資金が回収できなくなることもあります。
価格変動リスク・信用リスク 公社債の価格変動	組入資産の価格が下落した場合には、基準価額が下落する要因となり、投資元本を割込むことがあります。 公社債の価格は、一般に金利が低下した場合には上昇し、金利が上昇した場合には下落します。また、公社債の価格は、発行体の信用状況によっても変動します。特に、発行体が債務不履行を発生させた場合、またはその可能性が予想される場合には、公社債の価格は下落します。
価格変動リスク・信用リスク リートの価格変動	組入資産の価格が下落した場合には、基準価額が下落する要因となり、投資元本を割込むことがあります。 リートの価格は、不動産市況の変動、リートの収益や財務内容の変動、リートに関する法制度の変更等の影響を受けます。
為替変動リスク	外貨建資産については、資産自体の価格変動のほか、当該外貨の円に対する為替レートの変動の影響を受けます。組入外貨建資産について、当該外貨の為替レートが円高方向に進んだ場合には、基準価額が下落する要因となり、投資元本を割込むことがあります。
カントリー・リスク	投資対象国・地域において、政治・経済情勢の変化等により市場に混乱が生じた場合、または取引に対して新たな規制が設けられた場合には、基準価額が予想外に下落したり、方針に沿った運用が困難となることがあります。
その他	解約資金を手当てするため組入証券を売却する際、市場規模や市場動向によっては市場実勢を押下げ、当初期待される価格で売却できないこともあります。この場合、基準価額が下落する要因となります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

その他の留意点

- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- 当ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受付けが中止となる可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性があります。

《ファンドの費用》

投資者が直接的に負担する費用		
	料率等	費用の内容
購入時手数料	販売会社が別に定める率 〈上限〉 <u>3.3% (税抜3.0%)</u>	購入時の商品説明または商品情報の提供、投資情報の提供、取引執行等の対価です。
信託財産留保額	ありません。	—
投資者が信託財産で間接的に負担する費用		
	料率等	費用の内容
運用管理費用 （信託報酬）	(分配型)： <u>年率1.4025%</u> <u>(税抜1.275%)</u> (成長型)： <u>年率1.485%</u> <u>(税抜1.35%)</u>	運用管理費用の総額は、日々の信託財産の純資産総額に対して左記の率を乗じて得た額とします。運用管理費用は、毎日計上され日々の基準価額に反映されます。
配分 (税抜) (注1)	委託会社	販売会社および受託会社への配分を除いた額
	販売会社	
		各販売会社ごとに、次の額を当該各販売会社にかかる各ファンドごとの取扱純資産総額により按分して得た額
		当該各販売会社にかかる「6資産バランスファンド（分配型）」および「6資産バランスファンド（成長型）」の取扱純資産総額の合計額に次の率を乗じて得た額
		200億円以下の部分
		200億円超500億円以下の部分
		500億円超1,000億円以下の部分
	1,000億円超2,000億円以下の部分	
	2,000億円超の部分	
受託会社	年率0.05%	運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価です。
その他の費用・ 手数料	(注2)	監査報酬、有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等を信託財産でご負担いただきます。

(注1)「運用管理費用の配分」には、別途消費税率を乗じた額がかかります。

(注2)「その他の費用・手数料」については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※購入時手数料について、くわしくは販売会社にお問合わせ下さい。

※運用管理費用の信託財産からの支払いは、毎計算期末または信託終了時に行なわれます。

※手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。また、上場不動産投資信託は市場価格により取引されており、費用を表示することができません。

購入単位	最低単位を 1 円単位または 1 口単位として販売会社が定める単位
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額（1 万口当たり）
購入代金	販売会社が定める期日までにお支払い下さい。
換金単位	最低単位を 1 口単位として販売会社が定める単位
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額（1 万口当たり）
換金代金	原則として換金申込受付日から起算して 5 営業日目からお支払いします。
申込締切時間	原則として、午後 3 時 30 分まで（販売会社所定の事務手続きが完了したもの） なお、販売会社によっては異なる場合がありますので、くわしくは販売会社にお問合わせ下さい。
換金制限	信託財産の資金管理を円滑に行なうために大口の換金申込には制限があります。
購入・換金申込受付 の中止および取消し	金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情があるときは、購入、換金の申込みの受け付けを中止することがあります。
繰上償還	次のいずれかの場合には、委託会社は、事前に受益者の意向を確認し、受託会社と合意のうえ、 信託契約を解約し、信託を終了させること（繰上償還）ができます。 ・受益権の口数が 30 億口を下ることとなった場合 ・信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき ・やむを得ない事情が発生したとき
収益分配	6 資産バランスファンド（成長型）：年 2 回、収益分配方針に基づいて収益の分配を行ないます。 （注）当ファンドには、「分配金再投資コース」と「分配金支払いコース」があります。なお、お取扱い可能なコースおよびコース名については異なる場合がありますので、販売会社にお問合わせ下さい。
課税関係	課税上は株式投資信託として取扱われます。配当控除、益金不算入制度の適用はありません。 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に NISA（少額投資非課税制度）の適用対象となります。 当ファンドは、NISA の対象ではありません。 ※税法が改正された場合等には変更される場合があります。

《当資料のお取り扱いにおけるご注意》

- 当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和アセットマネジメントにより作成されたものです。
- 当ファンドのお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容を必ずご確認ください。
- 投資信託は、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではありません。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。
- 投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。証券会社以外でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮していませんので、投資者のみなさまの実質的な投資成果を示すものではありません。
- 当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は資料作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。
- 分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

販売会社等についてのお問い合わせ

▶ **大和アセットマネジメント** フリーダイヤル 0120-106212（営業日の9:00～17:00）

当社ホームページ

▶ <https://www.daiwa-am.co.jp/>

6 資産バランスファンド（成長型）（愛称：ダブルウイング）

販売会社名（業態別、50音順） （金融商品取引業者名）		登録番号	加入協会			
			日本証券業 協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 第二種金融商 品取引業協会
株式会社三井住友銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第54号	○	○		○

上記の販売会社は今後変更となる場合があります。また、販売会社によって、新規のご購入の取扱いを行っていない場合や、お申込み方法・条件等が異なります。くわしくは、販売会社にお問合わせ下さい。